

# もの言う市民が減る



「共謀罪」法の賛否について投票する通行人。岐阜市の名鉄岐阜駅前。15日午後0時5分。沼田亮撮影

## 各地で抗議

「共謀罪」の構成要件を改め「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法が国会での強行採決の末に成立し、東海3県各地では抗議の声が起った。

岐阜市の名鉄岐阜駅前では、「岐阜・九条の会」などが緊急集会を開いて抗議した。

同会代表世話人の吉田千秋・元岐阜大教授(74)は「共謀罪を適用する基準があいまいで、市民への日常的な監視活動を容認することになる。市民の表現の自由を萎縮させる」と語気を強めた。「憲法9条を守る岐阜県共同センター」の竹中美喜夫事務局長(69)も

「もの言う市民が圧倒的に少なくなってしまう」と懸念を示した。

# 声上げ続ける

## 市民団体、廃止訴え

岐阜市内

改正組織犯罪処罰法が成立したことを受け、「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ「テロ等準備罪」に反対する市民団体が15日、岐阜市神田町の名鉄岐阜駅前街頭活動を行い、「法律が運用されないように声を上げ続けよう」と同法の廃止を訴えた。

岐阜・九条の会(吉田千秋代表世話人)も同駅前で行った。吉田代表は「警察が日常的に個人のさまざまな情報をキャッチし、取り締まれるようになってしまつた。話し合えば罪になるなど、そんなばかな話はない」と強く批判した。

憲法9条を守る県共同センター(近藤真代表)は共謀罪の賛否について市民にシール投票を募ったほか、プラカードや横断幕を持って廃止を呼び掛けた。竹中

# 東海「諦めない」

「国民なめんな」「共謀罪反対」。採決から約12時間後の15日夜、名古屋駅前でシュプレヒコールが上がった。大学生の岡田朋子さん(21)は集まった市民ら約60人を前に「強行採決はおかしい。もっと話し合つのが民主主義国家じゃないのか」と訴えた。名古屋市の会社員落合拓さん(24)も「大切なのはあきらめずに声を上げ続けることだ」と会を締めくくった。

岐阜市の名鉄岐阜駅前には同日昼、約50人が集まった。元岐阜大教授の吉田千秋さん(74)は「警察の活動を助長するのが共謀罪。一般市民には関係ないと言われるが適用基準が曖昧なまま、ものを言う自由が奪われ、権力に対する批判はなくなる」と訴えた。「強行の暴挙許さない」。15日夕、津市の津駅前には市民団体などの代表ら約20人が集まり、プラカードを掲げた。足を止めた津市の会社員村田要さん(56)は「戦前のような世の中にならないか心配」と話した。

岐阜市の名鉄岐阜駅前には同日昼、約50人が集まった。元岐阜大教授の吉田千秋さん(74)は「警察の活動